

高齢者免許更新事情

内藤 真理子

高齢者（七十歳以上）免許更新をした。前は、高齢者になりたて。従来の講習に、実地運転が加わり、近所の自動車教習所で運転の技能検査も受けたのだが、今回は、その上に認知機能検査が加わった。

府中の自動車試験場に赴き、何枚かの絵を見せられて、時間をおいてから何が書いてあったかのテストである。認知度に特に自信のない私は、ドキドキだったがなんとか切り抜けた。

ここで、更新時になると、いつも通りの講習を受けて免許証が発行されることになるのだが、今年は違う。一回でも、違反をしていると、運転技能試験を受けなくてはならない。

私は、少し前に違反切符を切られている。

その時は、目の前の信号は青。斜めの信号が赤だった。まっすぐ行くつもりでいたのに渋滞、斜めの道は空いていて誰も待っていない。

ん？こちらを行った方が早いのではないかと、ハンドルを切った。斜めの信号は赤！そこで待機していた婦人警官がすかさず、有無を言わず「信号無視！」と行く手を遮り、一万円の請求切符。私はやむなく払い、なお且つこの負荷テストを受ける羽目になった。

もう、運転免許を返納しようか、と逡巡したが、夫はばね指で運転するのを控えている。我が家のボロ車の自動車税は払った。車検も通した。ここであきらめるわけには行かない。そんな事情があつて、所定の運転試験場に申し込んだのだ。

今年から始まったこの制度、なかなか空き時間がない。やっと予約が取れて行ってきた。試験料六千円也。

だが、実地試験は、普段運転している者にとっては簡単なものだった。一時停止、右折左折の時、センターラインを越えない、乗り上げない、等のルールを遵守すれば減点はなく、私は百点満点だった。

「そうよ、私も年なのだし、これからは気を引き締めてルールを守って運転しよう」と心に誓った。

このテストで、一番良かったのは、夫がひれ酒で合格祝いをしてくれたことだった。

めでたし、めでたし。